中央地区広報

虹

（四十四）　９月号

平成２３年
９月１２日発行
担当者
髙木　優希
（新宿２年）

こんにちは。夏休みは終わってしまいましたが、皆さん元気ですか？僕は合宿で張り切り過ぎて足を怪我して病院に行きました（笑）みなさんはどうぞお気をつけて・・・

さて、先日都立晴海総合高校で地区大会の申し込みとプログラム決めが行われました。今月号は現段階で決まっている、各校の上演順と各会場のお手伝い校を記載します。

NEWS

『２０１１年度　地区大会　上演順』

＊舞台芸術学院
9/25(日)　公演

1.京華学園
2.立教池袋
3.日大豊山
4.暁星
5.淑徳巣鴨
6.東海大高輪台
7.都立新宿

＊都立晴海総合高校
10/2(日)　公演

1.都立六本木
2.都立竹早
3.都立豊島
4.都立晴海
5.新宿山吹
6.正則

＊駒込高校勧学ホール
10/9(日)　公演

1. 九段中等教育
2. 都立向丘
3. 大妻
4. 獨協
5. 都立戸山
6. 駒込

＊駒込勧学ホール
10/10(月・休)　公演

1. 都立千早
2. 十文字
3. 都立総合芸術
4. 城西大付属
5. 共立女子
6. 村田女子

『各会場　お手伝い校』

＊舞台芸術学院（9/25）…　城西、駒込、共立女子、正則、竹早

＊都立晴海総合高校（10/2）…総合芸術、向丘、日大豊山、十文字、東海大高輪台、千早

＊駒込高校①（10/9）…村田女子、晴海、六本木、新宿、立教池袋、淑徳巣鴨、京華新宿山吹

＊駒込高校②（10/10）…　戸山、大妻、

ここで、お手伝い校の役割について説明します。

地区大会において、このお手伝い校は非常に大きな役割を持ちます。率直に言いますと、**『他の人に演劇を観てもらうなら他の人の演劇を観よう！』**ということです。色々なお芝居を観ることも演劇部としての活動の一つだと思います。

各校、決められた日にはできるだけたくさんの部員を連れて、他の高校のお芝居を見に行きましょう！

（初日の舞台芸術学院では会場の問題により、各校お手伝いの人数を制限させていただく場

合があります）

！注意！

演者と観客、お互いが気持ちの良い緊張関係を保ったまま同じ空間を共有するには大前提として観劇する際のマナーが必要ではないでしょうか？

１　上履きは持ってこよう

演者と観客・・・等より以前の問題です。会場を貸して下さる方達の礼儀として守りましょう。徹底お願いします。持ってくると言えばそうそう、上着を持ってくるといいですよ。

２　上演中は静かに

ギャグシーン等で観客に狙い道理に笑ってもらえる、感動的なシーンでお客さんを泣かせる、これほど演者がうれしい事は無いですが、私語はもちろんそれとは別です。自分はよくても、演者を含めた周りの全ての人物を不快にさせます。

途中入場についても意識を持ちましょう。集中して観客と演者が一つになり、素敵な空間を作りたいですね。

３　携帯電話

携帯の音はもちろんバイブ音は上演の妨げとなります。ぶち壊しです。もう一度言いましょう。**ぶち壊しです。**必ず上演前に確認をしましょう。おっとそこの「バイブレーターが作動しなければいいんじゃね？」とか思っているそこのキミ！着信を告げるライトの点滅がイライラするんだよ・・・（昨年度地区大会での筆者の体験談）そういえば、これをやってる人がたまにいます、「時間やメールの確認の為、ケータイをパカパカする」。もちろんＮＧ！周りの人を現実に戻す、強烈な電波を発します。皆がお隣の方に「電源消しました？」と一声かければ万事解決！

４　飲食について

飲食は決められた場所でしましょう。もし上演中（無いと思うが）カレーの匂いが漂って来たらどう思いますか？最低限のマナーとして守りましょう。例え、決められた場所（楽屋を含む）でも、匂いがキツイものはやめておきましょう。（例えばコンビニのナポリタン、カレー・・・）

おにぎりがＢＥＳＴ！　ｂｙ　Ｇ☆高校　Ｉ田先生

☆特集　脚本を書く☆

地区大会が迫り、練習も大詰めになってきた学校も多いのではないでしょうか？筆者の新宿高校は創作しよう、という事でなんと筆者が脚本を担当する事になってしまいました。**が**、この「虹」を書いてる、８月３０日現在台本は完成しておりません（汗）そこで、自分を助けるという意味も込め今回は脚本の書き方について取り上げます。聞いた情報や、体験談を元に書いていくので読者の考えとは違う事があると思いますが、最後まで読んでもらえたらうれしいです。

テーマを考える

皆さんは脚本を書いた事がありますか？初めて脚本を書こうとした時、困りませんでしたか？どう書けばいいのか？何をテーマにすればいいのか？ホントに書き始めるまでが厄介です。なにを書くか。テーマの選び方は何通りもあると思いますが、多くが、

・自分が興味、関心を持っている事をテーマとする

・社会が興味、関心を持っている事をテーマとするの二つに分類されるのではないでしょうか。ですが、これはあくまで大まかでいいと思います。書いていくうちに同じテーマでも別の視点からのお話をかいてみたくなるかもしれません。テーマを決める段階では大まかに、柔軟に書いていくのがコツではないかと筆者は思います。

テーマを具体化する

テーマが決まってからなにをしたらいいか、それはテーマを具体化する事だと思います。例えば、シーンを絵で思い浮かべる、一言だけでもセリフを起こす、使いたいものを考えてみる、使いたい音からシーンを考える等々。僕の場合は、セリフやキーワードを考えて、そこから漠然とキャラクターを作って対話させたり、シーンを作っていきます。僕の敬愛してやまないラーメンズの小林賢太郎さんは絵を思い浮かべてそこからシーンを思い浮かべるそうです。

整理する

具体的な物が断片的に出来たら、それを台本に使う為に一回整理するといいと思います。起承転結や序破急といった具合に段階に分けるのが、やりやすいのではないでしょうか？僕は一枚の紙を四つに分け、そこに起承転結と書きます。そしてそこに前の段階で考えたセリフやシーンを起承転結のどこかに当てはめていきます。そうすると、なんとなく全体像が見えてきます。（注　あくまで個人的な意見です）

プロットを作る

プロットとは演劇、マンガ、小説、映画における筋の事を指します。整理して漠然に流れが見えてきたら、本格的に流れを考えていきましょう。シーンの内容を具体的に考え人間関係をキチンと成立させたりします。

内容だけでなくシーンの順番も重要です。ここを大事にやらないと物語が成立しなくなる場合もあるので、丁寧にやるべきだと思います。プロットが完成したら一回第三者の視点を通すのもいいかもしれません。

とにかく書く

プロットを作り終えたら、とにかくとにかく、書く事が重要だと思います。書いて書いて・・・そして書く。ただこれだけではないでしょうか。書いては読みなおし、書いては読みなおす。手順も何も無いと思います。（これが一番ツライんだよなぁ・・・何稿書いた事やら）

実際にやる

台本が出来たら役者に台本を読んでもらって、実際に動いてもらう事も重要だと思います。動いてもらったのを見る事でインスピレーションが湧く事もあります。（体験談から）書いたものにこだわらず、前の段階の「とにかく書く」との間を行ったり来たりしてどんどん煮詰めていくのが良いのではないのでしょうか。新しく取り上げたいテーマがふと動いているのを見て浮かぶかもしれません。

最後に

と、まぁ為になるようでならない脚本の書き方講座はどうでしたでしょうか？ここまで書いてきて思ったのは・・・「人それぞれだな」ってことです（↑それ言ったらお終いだろっ）

今回一般的な脚本の書き方と思われる手順を整理してみましたが、僕の解釈も多く入っています。まぁ自分に合った方法でマイペースが一番だねっ

～追記～

9月半ばにやっと筆者は自校の脚本が書けましたっはぁ～よかったよかった。でもこれから大幅な手直しがありそう（汗）↑超私事（汗）

～日常茶飯事～　By 新宿高校演劇部

どーも、新宿高校演劇部です。

ご存じ新宿高校演劇部です。

「変」という事でおなじみの新宿高校演劇部です。ふぅ。くどいですね。自己主張が激しいのです。いや、自己主張しなくてもよく目立つらしいです。個性が強いから（2年だけかな・・・？）。自覚はしてます。直そうとは思いません。

そんな新宿高校演劇部、ただいま部員は五人。少数先鋭（を目指して？）でやっております。年中音照のオペレーターさんがいなくて困っています（汗）

顧問はあの後飯塚先生。通称ごいさん。不思議な先生です。僕ら部員も良く分からないです。劇中に変なタイミングで笑い声が聞こえたらそれはごいさんの笑い声です。気にしなくて大丈夫です。SS（すこし不思議）なのです。でも頭が切れる凄い人です。天才。ごいさんのことばっか書いちゃった。そんだけ部員はみんな大好きです。

練習は基礎練以外に部長がふらっと持ってきた何かをやっています。ラーメンズが多い。完全に趣味。↑いいじゃないか。

変わった、難しい劇をやるとよく言われますが、自然にそうなっちゃうみたいです。趣味なのかもしれません。僕らも良く分かりません。流れでそうなっています。

部長の筆者が四字熟語で部員紹介（独断と偏見で）してみます。

変人、奇人　髙木優希（写真中央、変な奴）
↓古今無双（独断と偏見ですから）
マスコットキャラ　佐藤瑞起（組み体操してる子）
↓活溌溌地（会えば分かる）
ほんわか担当　青砥真里奈（右上、ピースが似合う）
↓清廉恪勤（いや、ホントに）
ふわっと担当　北口美萌（右下、飽くまでふわっと）
↓温良恭倹（なんて優しい子だろう）
クールビューティー　佐藤友架（左下、たまに毒舌）
↓速戦即決（これはただのイメージ）
辞書片手に書きました。読めるけど書けません（なら書くな）。

ここまでふざけて書いちゃいましたが、演劇への姿勢はどこまでも真面目です。演劇にかける情熱は誰にも負けはしてない（つもり）と思っています。

「お客様に楽しんでもらうためにはまず自分から」をモットーに日々演劇という表現方法を日々勉強中です。

愉快な方々です。見かけたら声を掛けてねっ

劇場で僕と握手！